

【島のくらしの情報】

小笠原諸島（父島・母島）

<p>①仕事（収入）の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 島には、農業や水産業といった一次産業従事者と観光やガイドなどのサービス業従事者が多くいます。 ・ 農業、漁業共に後継者になってくれるような人材を求めています。 ・ 観光に係るサービス業では、民宿や商店、飲食店など頻繁に人材募集を行なっています。 ●お問い合わせは、小笠原村観光協会 電話04998-2-2587 小笠原母島観光協会 電話04998-3-2300 ・ 小笠原村では看護師や助産師、保育士、保健師などの専門職を継続的に募集しています。 ●お問い合わせ：総務課総務係 電話04998-2-3111
<p>②住居の状況（貸家、空き家など）</p>	<p>【父島】 都営住宅が整備されている他、民間経営の集合住宅があります。都営住宅については、年1回、あき家への入居者募集が行われますが、例年応募者多数につき、抽選会が行われています。</p> <p>【母島】 都営住宅が整備されている他、民間経営の集合住宅がありますが、軒数も少なく、父島に比べ住居の確保が厳しいのが現状です。都営住宅については、年1回、あき家への入居者募集が行われますが、例年応募者多数につき、抽選会が行われています。</p> <p>●お問い合わせ：【都営住宅】東京都小笠原支庁土木課住宅係 電話04998-2-2123</p>
<p>③医療環境の状況</p>	<p>【父島】 [医科] 医師3人、看護師10人、助産師1名、薬剤師1名、X線技師1名、理学療法士1名、臨床検査技師1名、栄養士1名、調理師3名 [歯科] 医師1名、歯科技工士1名、歯科衛生士1名が常駐し、住民の健康を守っています。</p> <p>【母島】 [医科] 医師1人、看護師2人 [歯科] 医師1名、歯科衛生士1名が常駐し、住民の健康を守っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 急患発生時には東京都を通じて海上自衛隊に協力を要請し、海上自衛隊の機材を利用した本土への空路搬送を行なっています。 ・ 妊産婦は、本土の病院での検診・出産が必要となります。／ 村では妊産婦の方の負担軽減のため、海上運賃などの補助を行っています。 <p>●お問い合わせ：【父島】小笠原村診療所 電話04998-2-3800 【母島】母島診療所 電話04998-3-2115</p>

④福祉環境の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・父島・母島に老人福祉施設が各1ヶ所あり、以下の介護サービスを提供しています。 訪問介護／通所サービス／短期入所生活保護 ●お問い合わせ：村民課福祉係 電話04998-2-3939 ・父島には高齢者の介護入所施設で、生活支援等のサービスも受けられる住宅型有料老人ホーム「太陽の郷」があります。 小笠原村診療所の2階に併設されていて、医療と介護の連携によるサポートを行っています。 ●お問い合わせ：医療課 電話04998-2-3800 ・小笠原海運（株）では、高齢者の方が内地の医療機関に入院あるいは通院される場合に、定期船「おがさわら丸」の運賃割引制度を実施しています。 ●お問い合わせ：村民課住民係 電話04998-2-3113
⑤教育環境の状況	<p>【父島】 村立の小中学校が1校、都立小笠原高校があります。</p> <p>【母島】 村営の小中学校が1校あります。</p> <p>●お問い合わせ：【父島】 小笠原小学校 電話04998-2-2021／小笠原中学校 電話04998-2-2502 小笠原高等学校 電話04998-2-2346</p> <p>【母島】 母島小学校 電話04998-3-2181／母島中学校 電話04998-3-2182</p>
⑥上下水道・電気・ガスの状況	<ul style="list-style-type: none"> ・島内の集落地域については、上水道、下水道とも概ね整備されています。 ・ガスはプロパンです。 ・電気は、島内にある火力発電所を利用。また、公共施設などでは太陽光発電システム、雨水利用システムを導入して資源の有効活用に取り組んでいます。

<p>⑦本土との交通手段（費用、時間、便数など）</p>	<p>小笠原諸島（父島・母島）には空港がないため、交通手段は定期船「おがさわら丸」のみで、およそ週1便、片道24時間のスケジュールで運航しています。</p> <p>「おがさわら丸」は、東京港竹芝桟橋を午前11時に出港し、父島二見港に翌日午前11時に到着します。</p> <p>その後、通常スケジュールでは父島に3泊停泊し、東京港出発から5日目の午後3時30分に父島を出港、翌日午後3時30分に東京に到着するといった、全5泊6日の行程となります。</p> <p>※GW、夏休み、年末年始などの期間については、午前11時父島に到着し、その日の午後3時30分に東京に向け出港する着発便となり、週2便での運航が行われています。</p> <p>なお、母島には父島到着後、定期船「ははじま丸」に乗り継いで、更に片道2時間の行程となります。</p> <p>※ははじま丸は週に5日程度の運航スケジュールです。</p> <p>「おがさわら丸」、「ははじま丸」の運航スケジュール及び費用については、(株)小笠原海運のホームページに掲載されています。</p>
<p>⑧島内の交通手段（費用、便数など）</p>	<p>父島のみ村営バスが運行しています。扇浦線と大村～奥村循環線の2つの路線があります。扇浦線は、集落地区（西町～東町～清瀬～奥村）と集落外（境浦～扇浦～小曲～北袋沢～小港）を結ぶ往復路線で、循環線は、集落地区を海沿いからまわり始める「ブルーライン」と、丘の上からまわり始める「オレンジライン」という2種類のまわり方がある循環路線です。</p> <p>運行本数は、平日は朝の7時から夕方6時まで、おおむね1時間に1便の間隔で、循環線「ブルーライン」(15分)～扇浦線往復(往復30分)～循環線「オレンジライン」(15分)というコースで走っています。休日は、朝の8時から夕方6時台までの運行で、平日より運行本数が少なくなっています。（詳しくはバス時刻表・路線図をご参照下さい。）</p> <p>※費用は、大人片道200円。一日乗車券は一人500円。</p>
<p>⑨買い物場所・物価の状況</p>	<p>【買い物場所】</p> <p>父島：スーパー・商店など5軒、レストラン・食堂・カフェ・居酒屋は20軒以上あります。</p> <p>母島：スーパー・商店など3軒、レストラン・食堂・カフェ・居酒屋は4軒あります。</p> <p>【物価】 スーパー・商店で売られている食料品や日用品の価格については、東京（本土）とそれほど大きな差はございませんが入荷物や数は限られています。また、通話料金や郵便・宅急便（ヤマト宅急便）料金につきましては、相手先が東京都内の場合、都内料金となります。</p> <p>【ガソリン価格】</p> <p>本土に比べ、約1.4倍ほどかかります。</p>

⑩これまでの移住実績	※小笠原村として、すべての実績を把握していないため、無記入。
⑪移住を希望される方の短期滞在、下見に対する支援の状況	<p>小笠原村診療所において、医療介護職（助産師、介護福祉士、臨床検査技師）に対する業務視察、体験、就職説明会を行っています。</p> <p>参加希望者には、旅費等の一部補助を行っています。（ただし、定員に到達次第終了となります）</p> <p>※定期船、宿等の手配はご自身で予約、購入していただきます。</p> <p>●お問い合わせ：小笠原村診療所 電話04998-2-3800</p>
⑫移住にあたっての支援の状況	現在、移住支援はおこなっていません。
⑬そのほか島での暮らしぶりについて伝えておくべき必要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ・小笠原では、定期船おがさわら丸の入港、出港に合わせたスケジュールで仕事やプライベートを過ごしている方がほとんどです。船が入ると観光の方の他、物資（食料品や生活必需品）などが続々と届きます。そして3日後の出港までは、島内の商店や飲食店がにぎやかになります。その反面出港後は、ほぼ島民のみの生活になるため静かな島内です。小笠原の特徴の一つに、観光シーズン（5月のG.W、7月下旬から8月末、年末年始）があります。この期間は、船が週2便で運航され、季節に合わせたイベントも数多く催されます。 ・小笠原には不動産屋はなく、賃貸住宅も少ないのが現状です。そのような中で、移住されるとなると住居付きの職に就くことがお勧めです。 ・移住された方の大半は移住後に複数の職務経歴を有しています。移住後に構築されていく人間関係から、より自分に合った仕事へとステップアップされるためです。自然に関わる仕事が好き、人と接する仕事が好きなど趣味や特技を活かして島生活をされています。また、島ではスポーツや文化活動などが盛んで、年に数回開催されるイベントに向け日々活動しています。島の住民のほとんどが移住者ですので、自分に合った団体活動に参加することが島に馴染む一番の近道となります。 ・小笠原の生活パターンを知っていただくためには、やはり一度来島していただくことをお勧めします。島には時期や季節により魅力も様々です。色々な時期に来ていただければより実感を持っていただけたと思います。